

理振備品費 ローターションについて<2017(H29)年度以降> 原案

配当 順位	学 校 名	平成22年 度整備額	平成23年 度整備額	平成24年 度整備額	平成25年 度配当	平成26年度 配当	平成27年度 配当	H28年度 配当	平成29年度 配当予定	平成30年度 配当予定	H31年度 配当予定
	<小学校費>										
1	富良野小学校	350,910			550,000			○			
4	布礼別小学校		318,900			○				○	
5	麓郷小学校		333,100			○				○	
6	鳥沼小学校			228,823			○				○
7	布部小学校			227,178			辞退				○
9	樹海小学校				350,000			○			
8	東小学校				550,000	○	○				
3	扇山小学校				550,000				○		
2	山部小学校				350,000				○		
	<中学校費>										
-	布礼別中学校	102,595			(辞退)		-	-	-	-	-
6	麓郷中学校	262,446			(辞退)	○		○			○
4	山部中学校		326,000	75,600	350,000		○			○	
2	布部中学校		326,000				辞退		○		
5	富良野東中学校			456,000	350,000			○			○
1	樹海中学校				550,000	○			○		
3	富良野西中学校				550,000		○			○	

※ 理振教材購入予算配当基準…1校当たり30～50万円を目安として配当する。但し、補助金額によって変動する。

《配当順位の考え方》

- ・平成21年度に理科教育設備整備費等補助金により全校の整備を行ったことにより配当順位を再考する。
- ・配当順位は、理科教育設備における平成21年度末現有率の低い学校順とする。
- ・この順位は平成22年度より適用し、以降、特段の事情のない限りはこの順に従う。
- ・この順位は、平成24年度補正予算による市内5校への配当を機に見直しを行ったものである。

- ☆ 辞退校があった場合は、次順位の学校の意向を聞き配当を行う。なお、辞退した学校の順位は次年度の最上位として取り扱う。
- ★ このローテーションについて、周辺校の学校規模の推移を見ながら、小学校では市内3校とその他6校、中学校では市内2校とその他4校など、将来的にローテーション見直しを行う事を排除しない。

理振備品費 ローテーションについて<2017(H29)年度以降> 市内五校・周辺校分離ローテーション案

配当 順位	学 校 名	平成22年 度整備額	平成23年 度整備額	平成24年 度整備額	平成25年 度配当	平成26年度 配当	平成27年度 配当	平成28年度 配当	平成29年度 配当予定	平成30年度 配当予定	平成31年度 配当予定	平成32年度 配当予定	平成33年度 配当予定	平成34年度 配当予定	H35年度 配当予定
	<小学校費>														
3	富良野小学校	350,910			550,000			○			○			○	
2	東小学校				550,000	○	○			○			○		
1	扇山小学校				550,000				○			○			○
2	布礼別小学校		318,900			○				○					
3	麓郷小学校		333,100			○					○				
4	鳥沼小学校			228,823			○					○			
5	布部小学校			227,178			辞退						○		
6	樹海小学校				350,000			○						○	
1	山部小学校				350,000				○						○
	<中学校費>														
2	富良野東中学校			456,000	350,000			○		○		○		○	
1	富良野西中学校				550,000		○		○		○		○		○
-	布礼別中学校	102,595			(辞退)		-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	麓郷中学校	262,446			(辞退)	○		○				○			
3	山部中学校		326,000	75,600	350,000		○				○				○
2	布部中学校		326,000				辞退			○				○	
1	樹海中学校				550,000	○			○				○		

※ 理振教材購入予算配当基準…1校当たり30～50万円を目安として配当する。但し、補助金額によって変動する。

《配当順位の考え方》

- ・平成21年度に理科教育設備整備費等補助金により全校の整備を行ったことにより配当順位を再考する。
- ・配当順位は、理科教育設備における平成21年度末現有率の低い学校順とする。
- ・この順位は平成22年度より適用し、以降、特段の事情のない限りはこの順に従う。
- ・この順位は、平成24年度補正予算による市内5校への配当を機に見直しを行ったものである。

- ☆ 辞退校があった場合は、次順位の学校の意向を聞き配当を行う。なお、辞退した学校の順位は次年度の最上位として取り扱う。
- ★ このローテーションについて、周辺校の学校規模の推移を見ながら、小学校では市内3校とその他6校、中学校では市内2校とその他4校など、将来的にローテーション見直しを行う事を排除しない。